



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくらい内  
TEL&FAX:0744-47-3981  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail:lets@some.jp

平成25年8月

# うるわし通信

## 古代史ブームの陰で考えたこと

古事記の成立が712年とされ(これには古くから異論があります)それから1300年を迎える前年あたりから、にわかに古事記が政治にも、市民運動にも採り上げられ、書店にはこの種の本や雑誌が溢れるように置かれています。間もなく、720年成立の(これには確証があります)日本書紀1300年のブームも招来されるでしょう。

通常、古事記を『記』といい、日本書紀を『紀』といい馴らし、記・紀は日本最大最高の歴史書として別格に扱われてきました。

桜井市は其中で、現在も生きている地名が各所に登場します(いまでは判らない死滅してしまった地名もあります)その土地と現代のわたしたちとの関係は何でしょう。

記・紀を権力者が歴史を占領したタテ軸とすれば、桜井にはヨコ軸としての平穏な日常生活を営む『民』の歴史があった筈です。

例えば忍阪を考えてみましょう。

ある日、思いもよらず神武軍に侵入され、謀略の酒宴のさ中に、みな殺しにされます。まるでヤクザ映画的一幕のようです。神武軍はみな殺しの勝利をととても喜び、歌をうたいます。この歌はアジア・太平洋戦争中に大いに喧伝された「撃ちてしやまん」意識すれば撃って、撃って、みな殺しにするまでだ。という「みな殺しの歌」です。

不思議なのは、どの本を読んでも、どの学者も、「土蜘蛛」と卑しめられた古代の忍阪の住民側からの声がない。「土蜘蛛」といわれた民は、一族絶滅したのでしょうか。辛うじて虐殺を免れた民は何処かへ逃げのびたのでしょうか。それとも、身分を隠して忍従の日々を送ったか……

「民」の側からの歴史がない。これが記・紀の欠点であり、換言すれば桜井の欠点となっています。例えば島根県には、民の側からのいい伝えとして『出雲風土記』があり、兵庫県には『播磨風土記』があります。

桜井には大和王権の陰にかくされて自前の風土記がないのです。本来、風土記というべきものはあったが、記・紀の中に剽窃されたとわたしは思うのです。オリジナリティを主張できない時代だったのです。気に入らぬ住民はみな殺しにするのですから。

「民」と遠く離れた記・紀を、わたしはあまり歓迎できないのです。

桜井は「記・紀」の中の桜井から脱却する見識と勇気を持つべきです。桜井は記・紀ブームにおどられずに、市民のための桜井を考えたい。人間の歴史は驚くほど遠い。人類の元祖はアフリカ大陸に生息したといえます。これからの歴史も予測できないほど永く続くでしょう。

未来のための歴史づくりをしたいものです。

## プロジェクトへの取り組みについて②

うるわしの桜井をつくる会常任理事 中尾七隆

先月号に引き続き、新たに現在チャレンジ中の産学官民連携によるプロジェクト事業をご紹介します。

○プロジェクト事業4；商店街まちづくり事業（経済産業省による）

— 桜井市本町通り2丁目商店街 —

桜井市本町通り商店街は、竹内街道～横大路～初瀬街道の一部区間である歴史街道です。この通りを景観行政団体となった桜井市は、昨年度、景観重点形成区域（＝歴史的まちなみなど特徴のある景観を保全する地区）に位置付けました。その計画方針は、「地域に残る町家などの歴史、文化、伝統が息づく資源を活かしながら、街道沿いのまちなみと調和した形態・意匠の誘導など一定の景観規制を行い、商店街としての魅力を高めます。」としました。

このような状況化、桜井市本町通り・周辺まちづくり協議会では、（社）奈良県建築士会に依頼し、町家実態調査（本町通り1丁目～跡見橋までの約1km区間、計159軒）を実施しました。結果、町家の残存率は、県内の町家地域と比べても48%と高く、その内の23%が空家となっていることが判明しました。また、新たに建て替える家は、新建材を使った一般の住宅が建ち始め、軒先は不揃いとなり町並み景観は崩れ始めています。

そこで、今春開催された桜井市景観まちづくりシンポジウムでは、畿央大学の三井田教授が、仕舞屋計画を提案しています。それは、昭和時代に町家を店舗化するため設置した看板を外し、修景すれば、魅力ある町並み景観が蘇えるというものです。（写真参照）

例えば、来迎寺の塀の前に設置されたテントを撤去+旧銀行の外壁を修景+来迎寺北側の3軒並ぶ町家を修景し、瓦屋根、土塀、植栽など自然素材と空が見えればどうでしょう？



短い区間ながら、昭和30～40年頃の良好な町並み景観が甦り、今後のモデルとなり得ます。

また、大阪工業大学林田研究室は、駅南口～商店街エリアのあり方を模型とパースを作成し、住民会議や図書館にての会合を通じて周辺住民に提案しています。快適で安全安心な町並みとコミュニティを図る居場所をつくることは、住民も賛同できることであり、次世代のためにも必要です。

今月、桜井市本町通り2丁目商店街（延長115mの区間）では、商店主と住民の皆さんが合意し、経済産業省の補助事業に応募されました。申請内容は、アーケード撤去を行い、景観に配慮した街路灯の設置・防犯カメラの設置・空き店舗をコミュニティ施設として整備するという内容です。「1丁目商店街」や「3丁目商店街」は未定ですが、2丁目商店街が応募したことにより、歴史的な町並みを修景・保全に向けた景観まちづくりの第1歩を踏み出したと言えるのでは無いですか。

## ○プロジェクト事業5「地(知)の拠点整備事業」(文部科学省による)

### ー 奈良県立大学 ー

今まで、奈良県立大学には、大和さくらい万葉まつり・第五次総合計画・市記紀万葉プロジェクト・桜井本町通りや三輪地域のまちづくり等、伊藤学長を始め、堀野先生と古山先生にたいへんお世話になっています。この度、県と4市町村(桜井市を含む)と連携し、奈良県立大学が、文部科学省のコミュニティ再生に向けた取り組みを支援する補助事業に採択されました。各市町村と大学が連携を強化してきたことが評価されたようです。今後、現在、桜井市民活動交流拠点運営協議会にて検討している「市民ふれあいホールを活用し、さらに、まちづくり拠点を充実させること」と「大学のサテライトの設置や図書館との連携がなされること」により、桜井駅南口を含む地域課題解決に向けた具体的な方向性が見えくると思います。



平井郁人(大阪工業大学4回生)作品

そこで、我々市民に求められていることは、住民・自治会+行政(市と県)+NPO等まちづくり団体+大学(よそ者・若者)が一つになり、第一段階;学習・調査・提言⇒第二段階;まちづくり型イベント⇒第三段階;地権者を交えたまちづくり活動(=エリアマネジメント)へと着実にステップアップすることだと思います。引き続き、会員皆様方のご協力・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

(以下次号へ続く)

## 講演『卑弥呼の時代』

6月23日総会後に纏向学研究センター所長寺澤薫氏の講演を催しました。寺澤氏は『魏志倭人伝』でいうところの「卑弥呼」は単に邪馬台国の女王のみならず、「倭国」という連合政権の大王とされている。「邪馬台国」は推定すると「ヤマト」であり、現在の纏向地域にほぼ間違いない。と古代の文書を説き明かしながら論証。なお、「ヤマト」とは後の時代の和ではなく、西に「葛城」北に「曾於(ソオ)」があり、それに対する纏向を中心とする、そんなに広範囲でない「ヤマト」のことで、和と記述すると混乱するのでカナ書にするなど興味深い話でした。講演後の質問も活発で、その後、現地見学も興味深く、古代史を学習する一日でした。





## 事務局だより

- 8月の常任理事会は、休会とさせていただきます、9月21日(土)を予定しています。
- 8月10・17日の事務局会も休会とさせていただきます。

## お知らせ

図書館友の会の8月読書会は「ぶんとふん：井上ひさし著」です。

日時 8月27日(火)午後1時30分から

場所 まほろばセンター第1研修室

友の会会員以外の参加も歓迎します。

問い合わせ先

浅川肇：090-1961-6345

## 「勝利の聖」建立序幕式

7月7日(土)午前9時30分より桜井市穴師地区の相撲神社にて、「勝利の聖建立序幕式」が日本相撲協会理事の八角親方(元横綱北勝海)と長谷川路可(野見宿禰画作者)ご遺族の風巻氏を始め、大勢の参加者のもと行われました。当日は、これに賛同する「大和すくね相撲甚句」のお披露目や「卑弥呼和太鼓」による演奏が花をそえました。

今後は「勝利のパワースポット」としてスポーツの勝利の聖地として発展していく事が望まれます。

タイミング良く、全国高校野球選手権大会に並みいる強豪校を抑え県立桜井高校が出場するのも「勝利の聖」のパワーのお蔭でしょう。



**編集後記** 夏の甲子園に桜井高校が出場することになりました。まことに、おめでとうございます。折柄の歴史ブームの中で、桜井高校はまさに新しい歴史の一步を踏み出したわけで、全市民があまりのことにこの喜びをどう表現したら良いのか、とまどっているという風にお見受けします。わたしにとって高校野球の試合中、お互いに校歌を斉唱し合うエールの交換の場面は、テレビ観戦でもナショナリズムに毒されているオリンピックより、よほどに感動的で、いつも思わず目がしらを熱くしているのです。(あさ)

うるわし通信編集責任者  
〒633-0091  
桜井市桜井142-5-203  
浅川 肇  
TEL090-1961-6345